



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
能登印刷

夢と希望を（進化）



会長
杉山 榮太郎

夢と希望（常に進化を）

皆様も今日ご承知の通り厳しい経済環境にあり、それぞれの立場で懸命に頑張っておられる事と存じます。

慶賀に存じます。物質的基礎を欠いた、福祉教育

もないと考えられます。

日々の努力、死の直前まで新しいものに挑戦し続ける事が、進化和幸せに通ずると思っております。皆様には一層の健康に留意され、一層のご活躍を、お祈り致します。

六星同窓会の益々の^{いやさか} 弥栄を願って



学校長
塩谷 優

六星同窓会会員の皆様方には、日頃より本校の教育活動に対しご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

六星同窓会は、全国で3箇所（関東・関西・東海）を始め県内の各市町に支部が置かれておりますが、今年度総会が開催された

ころは、東海支部（5/26ホテルサンルートプラザ名古屋）を皮切りに本部（6/9 グランドホテル松任）、金沢支部（7/7 金沢都ホテル）、関西支部（10/20 日本料理和楽）、関東支部（11/17 主婦会館プラザエフ）であるとお聞きしております。そのすべてに参加させていただき皆様のご尊顔を拝し、またお元気で気力にうち満ちたご様子も伺わせていただき、私自身大きなエネルギーをいただきました。その節は誠にありがとうございました。

さて、本校の近況であります。今年度は、様々なものに挑戦し続けてきた成果が随所にみられた年であったと思っております。一部紹介させていただきますと毎年開催される農業クラブ関係では長野県で開催された第63回日本農業クラブ全国大会の農業鑑定競技において2名の生徒が優秀賞に輝いてくれたのを始め県大会・北信越大会での意見発表やプロジェクト発表、農業鑑定競技や測量競技においても数多くの最優秀賞や優秀賞に輝いてくれました。また、平成24年度全国農業高校お米甲子園では、出展数105品中上位7品（校）に本校の生物科学コース作物班が中心となり栽培したお米が選ばれ、金賞に輝きました。また、農林水産省も関与いただいている一般の企業も参加して行われた

「フード・アクション・ニッポンアワード2012」の流通部門では、本校の食品科学研究会の「模擬株式会社SUISEIFACTORY（スイセイファクトリー）」の取組が高く評価され優秀賞（5点）に輝きました。ちなみに最優秀賞（1点）は、傘下に14、500店以上の小売店を持つ株式会社セブン&アイ・ホールディングスさんが受賞されました。また、「全国高校生みんなDE笑顔プロジェクト」の地域活性化プロジェクト部門でも優秀賞を獲得しました。更に本校のバイオサイエンス研究会やグリーンデザイン研究会では、「ポランティア・スピリット・アワード コミュニティ賞」を受賞。中日本高速道路（株）が主催した徳光PARIニューアルオープンでは、本校グリーンデザイン研究会が作成した花壇が採用され徳光パーキングエリア内に展示、訪れる方々の癒しの空間となっております。

その他数多くの賞（全体で80個、前年度27個を大きく上回る）を今年もいただき、生徒達の大きな励みとなっております。本年度で本校の歴史は1336年目を迎え県内は勿論、全国的にも歴史の古い学校であることは皆様ご承知の通りであります。明治維新という大きな改革のあった時代に本校の創世期があり、今日の日本が乗り越えてきた変遷、変革の

試練を歴史の歩みとともにくぐり抜けてきた本校の先輩諸氏に深く感謝申しあげると共に、霊峰白山をいただき、水清き石川平野に抱かれて学習できる喜びを感じながら、教育の真髄である「人づくり」の為に、生徒にはよく学び、よく鍛えて、質実剛健・独立自営の建学精神のもと、不撓不屈の「松農魂」を養っていくことが今、正に本校に求められているのではないかと感じております。今の時代や現在の教育が求めているものは、まさしく「生きる力」であり、その根底に「人づくり」が存在するのであることを確信いたしております。

今後とも、本校が150年、200年と歴史を刻み続けることが出来るようにご支援・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。おわりに私ごとになりますが、翠星高校一年間の勤務で定年退職となります。一年間で何が出来たのかはなほ疑問で迷惑をおかけしたことが多かったのではないかと恐縮しております。しかし、生徒を始め保護者の皆さん、同窓会や職員の皆さんからエネルギーをもらい元気をいただいたと感謝いたしております。長く歴史を刻んで来られた本校が今後益々栄えんことを心からお祈りいたします。誠にありがとうございました。

天皇杯受賞

小林 正治さん

昭和四十四年卒 農業科

平成24年度農林水産祭の天皇杯受賞者が決まり、石川県から本校（旧松任農業高校）を卒業された金沢市八田町在住の、小林正治さんがみごと受賞されました。

正治さんは、海水と淡水が混じり合う北陸最大級の汽水湖だった「河北潟」を毎日眺めながら育った。少年時代に胸を躍らせたのが、国営干拓事業河北潟の農地造成というビッグプロジェクトだ。「干拓地で大規模営農をしたい」という夢を抱き、農業高校へ進学。卒業後に家業を継いだ。

夢にまで見た河北潟の干拓地での営農は、昭和54年から始まった。「親から受け継いだ稲作と、河北潟の干拓地での野菜作を併せて営みたい」。ちょうど查代子さんと結婚した時期で、夫婦で夢を追いかけることになった。約1畝の稲作と併せて、約5畝の干拓地でスイカやカボチャ、キャベツ、ハクサイなどを栽培。当時は全国的にも珍しい野菜だったブロッコリーの栽培も手掛けるなど、多品目を輪作することで連作障害を避けた。

「干拓地の農業は、想像以上に大変だった」と正治さんは振り返る。

当初の干拓地は排水が悪く、機械作業が困難。干拓地特有の雑草にも悩まされた。多くの農家が離農する中、小林さん夫妻はあきらめなかった。作業時間をできるだけ短縮させるとともに、栽培方法を研究して、背後地の水稲と稲作業請負、野菜園芸の3部門の、大規模な複合経営を確立した。

正治さんは、地域の6次産業化への取り組みにも力を入れる。集落の有志10人で「八田町稲作請負組合」を設立。JAの資材倉庫を改造し、「金沢もちの里」を開設して餅の加工・販売で冬場の雇用を確保する。「金沢もちの里」のブランド餅は、地元直売所の人気商品となり、年間1500万円を売り上げるようになった。正治さんは、平成23年から同組合の組合長として、リーダーシップを発揮する。

正治さんと查代子さん夫妻、そして長男夫妻の4人家族で切り盛りする複合経営。正治さんはよく人から、「稲作一本に絞った方が楽ではないか」と言われる。それでも野菜作りにこだわるのは、少年のころに夢見た大干拓地での農業を実践したいからだ。

「技術の考案者みたいな大層なものじゃない。ただ、必要だったから考えて、やってみただけ」と正治さん。一人の少年の夢は家族4人の夢となり、地域全体に広がっている。

全国農業高校お米甲子園 で金賞を初受賞!!

作物担当 下崎 良智

第14回米・食味分析鑑定コンクール・全国農業高校お米甲子園部門において金賞を初受賞できました。このコンクールの高校生部門は今年で3回目、年々出品数が増加し今年は過去最高64校105品の中での受賞でした。初回、2回目とも、最終審査まで残り特別優秀賞を受賞していた、昨年は1票差で金賞を逃していたので、今年こそはという思いがありました。



この30名の審査員が食味官能試験を行い投票によって決定される。今回は本校を含む7校が金賞に選ばれた。



▶正治さんと查代子さん夫妻(右)。長男の孝志さんと二伊奈さん夫妻。

▼餅の加工・販売で、冬場の雇用を確保(下)。



このコンクールはお米の安全性や食味を求め「良質な米作り」に日々精進する農家を応援する目的と、市場でのお米の価値を高め、人々の健康維持に最適な米食を推進し、ひいては日本の農業の核である「米作り」を守ることにより豊かな田園風景を守り、地球環境の保全の一端となることを目的としている。

審査は1次審査で食味計により水分値、アミロース、タンパク質など分析、2次審査は味度計により炊飯で米粒表面にできるおねはの厚みと質を分析した合計と生産地域が考慮され20校が最終審査にノミネートされる。最終審査は、食味鑑定士、バイヤー、消費者

受賞したお米は2年次生が、課題研究で「おいしいお米づくり」に取り組んでいる8aの水田のもので、この水田は15年ほど前から化学肥料は一切使わず、牛ふんや米ぬかなど育て手刈りし、自然乾燥（はざ干し）している研究田です。今年度は元肥に乾燥鶏糞、穂肥には鶏糞を発酵し堆肥化したものを施用した。「おいしいお米を作るには」という課題に対して、これまでの栽培やコンクールの分析結果から研究班メンバー達と以下の2点の結論を得ました。

- ①有機質肥料を使用する。
- ②天日乾燥で仕上げる。

今後の課題として、分析結果の得点を上げるために、使用する有機質肥料の検討、水管理の工夫、水分値と脱穀日の検討があげられる。今回のコンクールにも金賞を獲得できるように、栽培計画の検討を行っている。



**模擬株式会社
SUISEI-FACTORY
の挑戦**

食品科学研究会

フードアクション・ニッポン

アワード2012

流通部門 優秀賞

全国高校生笑顔プロジェクト

地域活性化プロジェクト部門
優秀賞

1 プロジェクトの全体像

平成23年3月1日、通称「六次産業化法」が農林水産省から施行されました。この法律は、農家が農作物の栽培から加工、流通にまで経営を広げ、儲かる農業を展開



模擬株式会社 SUISEI-FACTORY

することを目的としています。さらに、地域の資源を活用した、地産地消による食料自給率向上も目指しています。私たち食品科学研究会は、これまで、地域の素材を生かした加工品の開発や研究を通じて、地産地消の普及を推進してきました。そして、これらの活動をさらに、拡大するため、農業の六次産業化推進、地産地消による地域振興を目的とする、農業高校生による模擬株式会社を設立しました。

2 地域の課題とニーズ

私たちの住む石川県は、山間部から平野部まで自然豊かな環境の中で農業が営まれています。また、現代の農業では、六次産業化の推進が叫ばれています。しかし、県内の農家の大部分は、六次産業化を進めようとしても食品加工に関する知識や設備もなく、自分たちの育てた農作物に付加価値をつけ、販売ができないのが現状でした。私たちは、昨年からの地域の農家の声を聞き六次産業化を支援できないかと調査を進めてきました。まず、地元白山市では、廃棄していた規格外トマトの処理に困っていました。また、金沢市では、柚子搾りかすの活用、そして小松市では、廃棄大麦全粒粉の活用など次々に地域の課題が浮かび上がってきました。

3 実践した活動

①JA松任トマト部会の今本さんから、規格外トマトを利用した六次産業化の協力要請があり、支援事業を開始しました。この事業は、収穫期に大量に発生する規格外トマトを冷凍・保管し、収穫期終了後、トマトピューレに加工し、県内のホテルやレストランへ納入する事業です。

②JA金沢市柚子部会は、柚子の加工用途をもっと広げることと検討していました。私たちは、果皮などの絞りかすに付加価値を付け、加工できないかと考え、成分分析を行い、マーマレードへの加工を検討しました。そして、搾りかすからマーマレードを製造し、包装形態に工夫を凝らして、柚子マーマレードを完成させました。

③小松市の(株)アンヤットでは、大麦を製粉する際、大量に発生する廃棄全粒粉の処理が課題となっており、私たちは、この全粒粉をさらに粉碎することで、製菓材料として利用できないかと考えました。試作を繰り返して、こまつむぎスイーツの商品化が実現しました。

④安定した会社経営を行うために、販路を拡大し、定期的な販売を行う必要が出てきました。そこで、(株)アンヤットが経営す

る直営店とJAグリーン松任まいどさん市場で定期販売をさせてもらえないかと交渉を行い、現在、月1〜2回の定期販売を実施しています。

4 苦勞した点

すべての活動をたつた6人の社員でやっているためたくさん地域のニーズに添えていくことが最も苦勞していることです。大量の原材料を自分たちの手で丁寧に製品に変えていく工程は、時には、運動部よりも遅くなり、結構しんどい毎日ですが、地域の人たちに私たち農業高校生のパワーを知ってもらおうことで笑顔になってもらうこと、そして地域の農業に少しでも貢献していることを心の中で言い聞かせながら頑張っています。私たちの商品を笑顔でおいしい



定期販売 (小松マルシェ)

と言つてくださるお客様の顔を見ることが一番苦勞を忘れさせてくれる瞬間です。そしてこの活動を通じてこれからの農業のさらなる可能性を感じる事ができました。そして、大きな課題に対してあきらめない姿勢や、たくさんの人たちと接することで得られたネットワークの大切さを知りました。

5 今後の構想や夢

現在は、翠星高校の生徒・教職員を中心に61名の株主に活動の応援をいただいています。今後は、地域の人たちに株主の輪を広げ、さらに大きな事業やたくさんの方の事業を手掛けていきたいです。また、社員が少ないので新入生を中心に来年度はさらに社員を増やし、会社設立以来、夢であった高校生ショップSUISEI-FACTORYを開店し、地域の皆様へ地元の素材の良さを高校生の視点でアピールできるようにしていきたいです。

今後さらに、株主の皆様や地域の皆様に喜んでいただけるように会社を経営していきます。

上田 悠さんに

『六星賞』授与

模擬株式会社を設立し、社長として地域連携や地産地消の推進に取り組んだ。

支部だより

関東支部

昭和三十六年卒

東 建路

関東支部の第16回総会は去る11月17日(土)に四谷駅前の主婦会館に於いて母校より塩谷優学校長、田端逸夫先生のご参加の下盛大に開催いたしました。

式次第により寺門香代子監事の司会で、村松邦祐支部長のご挨拶と学校長よりのご祝辞と母校の近況報告を頂戴いたしました。

引続き総会は、式次第に基づき事務局及び濱野千秋監事の会計監査報告の提案。質疑応答、全員による審議の結果、議案は満場一致で承認可決され総会を終了いたしました。

その後、加藤昭二理事の乾杯により懇親会を開催。歓談として会員の母校卒業から今日までの経歴紹介を行い、改めて会員の年輪の



重みを感じました。佳境の中で時間の経つのも早く、小林好晴副支部長の母校の発展並びに会員の健康を誓い散会となりました。

関西支部

昭和二十四年卒

宮岸 岩夫

六星同窓会関西支部平成24年度の定期総会は、去る10月20日11時30分から、大阪市中央区南船場「日本料理和楽」で開かれ、会員11人来賓として母校から塩谷学校長が参加下さいました。

総会は、徳井外志雄副支部長の司会で開催され、冒頭、前総会からこの日までに亡くなられた会員のご冥福をお祈りし、全員で黙祷を捧げた後、宮岸岩夫支部長からの挨拶と塩谷優校長より祝辞と母校の近況報告を頂戴しました。

議事は、平成23年度事務報告、同年度収支決算報告と平成24年度事業計画(案) 予算(案) について



て、活発な議論が展開され、提案された全ての議案が満場一致承認されました。

恒例の懇親会が山岸良子副支部長の乾杯の音頭で開かれ松永潔副支部長の万歳三唱で次回再会を誓い散会しました。

東海支部

昭和三十六年度卒

山本 満男

平成二十五年の新春も穏やかに迎えることが出来ました。私達六星同窓会東海支部も先輩のご努力に創立され、今年で十二年を迎えることとなりました。

世話役一同は、高齢化した会員皆様を当時の思い出で楽しく盛り上げたいと思っています。

今年、五月十八日(土) ホテル「サンルートプラザ名古屋」で開催させて頂きます。多数の参加を願って世話役一同頑張りたいと思います。



金沢支部

平成24年7月7日(土曜日)

金沢都ホテルで、役員の方々のご協力・ご支援により六星同窓会金沢支部が盛大に開催されました。大蔵捷直支部長のご挨拶、塩谷学校長よりのご祝辞を頂戴しました。

総会は、式次第に基づき事務局より会計監査報告の提案、質疑応答、全員による審議の結果、議案は満場一致で承認可決され総会を終了いたしました。

その後、昭和44年度卒業生で現在「宮子花園」を経営されている宮子豊吉氏より「潤いを与えたい：心で花つくり」という演題で講話をしていただきました。改めて、植物の偉大な力、魅力を感じ

事務局だより

〔本部〕

会計監査

5月30日(水)本校

総会・理事会

6月9日(土)グランドホテル松任

〔支部総会〕

〔東海支部総会〕

5月26日(土) ホテルサンルートプラザ名古屋

塩谷校長出席

〔金沢支部総会〕

7月7日(土)金沢都ホテル

ることができました。



塩谷校長、事務局出席

〔関西支部総会〕

10月20日(土)日本料理和楽

塩谷校長出席

〔関東支部総会〕

11月17日(日)主婦会館プラザエフ

塩谷校長、事務局出席

お祝い

瑞寶小綬章

藍綬褒章

天皇杯

藤田 崇宣

千田 清司

小林 正治